

報告日 令和7年10月30日  
報告回次 1回目

## 令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

### 1. 申請団体情報

#### 1-1. 申請団体

団体名	杉戸町			代表者名	窪田裕之	
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	市街地整備推進室		連絡先電話番号	0480-33-1111
担当者役職	主査	担当者氏名	吉岡 崇		連絡先E-mail	
住所	345-8502 埼玉県杉戸町清地2-9-29					

#### 1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	連絡先部署			
担当者氏名	連絡先電話番号		連絡先E-mail	

#### 1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	東武動物公園駅東口通り線周辺まちづくり支援事業					
概要	地域情報化を基礎とした行政広報・シティプロモーションと民間の協働に向けた職員向け研修。研修を通して地域情報化等を利用したシティプロモーション、エリアマネジメント等のまちづくり計画又はまちづくり戦略の策定に反映。							
支援を求める分野	計画策定支援 EBPM（エビデンスに基づく政策立案）							

### 2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	532	令和7年10月28日	事前打合せ&支援・助言	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年10月23日	事前打合せ&支援・助言（実地）	9時30分	16時30分	30
2-2. 派遣場所	会場名	ココティすぎと		最寄駅	東武動物公園駅
	所在地	杉戸町杉戸3-9-10		最寄駅からの交通手段	徒歩

### 3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	河井 孝仁
評価	大変良い
上記評価の理由 (どのようなところがよかったです等詳細に)	令和7年度末（令和8年3月）にアーバンデザイン策定を見込みおり、EBPMするにあたり、まちへの推奨・参加・感謝といった関与意欲を定量化する成果指標（地域情報化アドバイザー提唱のmGAP）を設けるための講演事前打ち合わせ及び現状を鑑みた支援・助言をしていただけた。mGAP/修正NPSの戦略的活用:mGAP（推奨意欲・感謝意欲・参加意欲）等の指標を、まちづくりの活動等の個別事業評価に導入することの必要性。事業効果を可視化（シティプロモーション等）し、データに基づいた次の施策立案に活用することの重要性を行政職員では気づき難い角度から指摘していただけて非常に有意義であった。
アドバイザーへの要望事項	特になし

### 4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】			合計人数	5人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	4		1	

#### 4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点 (具体的にご記入下さい)	政策立案する職員の意欲と組織文化: 担当部署の活動が他の行政職員に理解されず、部署が孤立。職員全体のまちづくりに対する意欲が低く、活動が冷めてしまうリスクがある。これは、職員が誰からも褒められない環境が一因と指摘。 コミュニケーション: 「アーバンデザイン」等のカタカナ語は住民、特に高齢層に理解されにくい。一方で、国の担当者等には専門用語を使う必要があり、相手に合わせた言葉の使い分けが重要。
支援により目指す成果 (具体的にご記入下さい)	まちづくりのブランド化: コンセプトを杉戸町の明確なブランドとして確立し、町民の「共通言語」とすることで他町との差別化を図る。実現には首長の理解と支持が不可欠。 「誰もが主役になれる」まちづくり: まちづくりの本質は、障害を持つ子供や生活困窮者など、あらゆる住民が「主役」だと感じられる状況を作ること。この理念を全般的な共通認識とする必要がある。 「感謝」と「褒める文化」の醸成: 住民や職員がお互いを「褒める」「感謝する」文化を醸成することが、全体のモチベーション向上に繋がる。「褒めやすい仕掛け」を意図的に作ることで、活動に参加しない人も「褒める」という形でまちづくりに貢献できる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	ウェブサイトの刷新: サイトの目的を「人と人をつなぐプラットフォーム」と再定義。多様な町民を紹介する「人図鑑」として発展させ、ユーザーのニーズに応じて関連人物を検索できる機能や、人々を組み合わせると新しい企画が生まれるような仕掛けを構想する。 mGAP/修正NPSの戦略的活用: mGAP（推奨意欲）等の指標を、eスポーツイベント等の個別事業評価に導入。事業効果を可視化し、データに基づいた次の施策立案に活用する。
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	まちづくり構想をブラッシュアップし、長期的な視点を取り入れるため、中心市街地の約2000世帯を対象としたアンケートの内容について、支援いただきアンケートの目的をはじめ内容の改善やエリアプラットフォームのメンバーと協議して活動の成果を定量的に示す（数字にする）ための仕組み（mGAP活用等）についてアドバイスをいただき改善を図った。 また、町民や職員がお互いを「褒める仕掛け」を具体的に設計し、導入するための講演を実施。
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。 ⑤組織業務改善ができた 現状にて課題の整理ができたことでアプローチ方法を確認できたことで、アンケートツールを修正改善することで適正なデータ採取する業務改善が出来た。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	事前打合せ&支援・助言(実地)のため特になし
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。（EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。） アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 2日目の事前打ち合わせと現状の支援・助言の為、特定の成果を評価・点数化することを目的としたものではないため。
4-3. 今後の計画	最も当てはまるもののリストより選択下さい ③現段階では課題・問題が残っているため未定
4-4. 事業の最終的な目指す姿	事前打ち合わせにおいて現状と課題の整理が出来たことで改善内容がクリアになった。

#### 5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可 掲載可

[https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good\\_practices/past\\_year\\_all\\_houkoku/](https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good_practices/past_year_all_houkoku/)

なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意下さい

#### 6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真（JPEG等）」を数枚程度貼り付けて下さい。

